

令和7年度 江戸川区立松江第三中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○素直で明るい、心豊かな生徒を育てる（素直で豊かな心） ○自ら進んで、よく学びよく働く生徒を育てる（学びと勤労） ○責任を重んじ、正義と規律を尊ぶ生徒を育てる（責任と規律）	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○生徒が通いたい学校 保護者が通わせたい学校 地域が応援したい学校 教員が働きたい学校 ○どんな状況でもたくましく生き抜く生徒 社会に出て、いろいろな人から自然に可愛がってもらえる生徒 ○信頼される学校づくり 教職員の輪（和） 地域との輪（和） 家庭との輪（和）
前年度までの本校の現状	成果 コロナ禍の後、生徒たちは落ち着いた学校生活を送り、自主的な取り組みを数多く進め、学校行事・委員会・部活動等も充実した活動にすることができていたが、昨年度一部の生徒が落ち着かなかった。挨拶や時間を守る等の基本的な生活習慣を身に付ける指導を心がけている。	課題	・不登校生徒は減少しているが、一定数いるので、「サポート学習室」を設置し、登校支援を進めている。 ・特別な支援を要する生徒への対応として、エンカレッジルームの充実をはかり、組織的な取り組みを進めている。 ・学力向上の一環として、授業終了5分前に振り返りの時間を取り、学習の定着を図るようにしている。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○授業改善の推進、学習基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・1主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善 ・ICT（3台分等）を活用した学習活動の推進 ・学習コンテストを実施（年3回）	・生徒、保護者学校評価で肯定率90% ・生徒、保護者学校評価で肯定率90% ・合格率70%以上	70	90	B	・学び合いの場面の設定 ・授業のめあてや目標の設定 ・5分前の振り返りを指導案に設定するよう心掛ける	B	生徒が主体的、対話的に学習に取り組めるよう工夫されている。	B	授業終了5分前のチャイムが定着し、振り返りやまとめを意識できている。	B	生徒が落ち着いた学習に取り組んでいる。	学力の定着と向上に向け教員の授業力アップと家庭学習の定着を進めていく。
	○読書科の更なる充実	・学校図書室や中央図書室を活用した読書活動の推進 ・各階フロアにミニ図書室を設置し気軽に本に触れることができる環境の整備 ・ICT（3台分等）を活用した学習活動の推進	・1主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善 ・ICT（3台分等）を活用した学習活動の推進 ・読書量を前年度比25%アップ	70	90	B	・読書科、総合の連携で、成果物を完成する取組を継続していく。 ・図書館管理システムの円滑な運用と貸出冊数の増加、学級での活用をめざす。	B	今後も工夫して進めてほしい。	A	ビブリオバトルやプレゼンテーション、成果物の完成に取り組めた。	B	今後も工夫して進めてほしい。	ビブリオバトルやプレゼンテーションの取組を継続していく。
	○外国語教育の推進	・ALTの効果的な活用と学び合いの場面を取入れた授業改善	全校・都・区の学力調査で、平均点以上	60	80	C	タブレット・ICT機器を活用し、ペア学習、グループ学習を効果的に取り入れている。 ・オンラインを活用するなど様々な側面からアプローチを考える。	B	生徒に学ぶ喜びを教えてほしい。	B	タブレットを有効に活用し、ペアワークなどで会話の機会を増やした。また、昨年度に引き続きALTと連携した放課後イングリッシュくらぶの活動を行った。	B	生徒が学びたいと思う意欲を高める取り組みを続けてほしい。	オールイングリッシュ授業の試みやイングリッシュDayを土曜授業で行う。
体力向上	○運動意欲や基礎体力の向上	・体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の工場	生徒・保護者学校評価で肯定率90%以上	65	80	C	・体育祭のいろいろな場面で運動意欲の向上が伺えた。家庭での自主的な運動を推奨していく。 ・3月に3年生対象のダンスチャレンジの授業を行う。	B	生徒が生き生きとした体育祭が実施できていた。	B	体力向上の一環としてLDHの講師を招きダンスチャレンジの授業を行った。生徒は意欲的に取り組んでいた。	B	積極的に新しい取り組みを行い、生徒の意欲を高めてほしい。	スポーツ庁の事業と連携し、来年度以降も継続していく。
	○部活動の充実	・部活動指導員や外部指導員を活用した部活動の推進	50%以上のブロック大会出場、30%以上の都大会出場	50	60	C	・それぞれの部活動で課題をもって取り組んでいる。	C	今後も上位大会を目指してほしい。	C	剣道部が都大会、陸上部が個人種目で複数都大会に出場した。	B	今後も活躍を期待したい。	部活動ガイドラインに沿って上位大会出場を目指す。
		新体力テストの活用	全学年区内15位以内を目指す	40	50	C	・運動の得意不得意がはっきり表れた。 ・基礎体力の向上を授業内で図る。	C	生徒が生産にわたって健康的な生活を送ることができる体力を身に付けてほしい。	C	授業内で基礎体力の向上を図ることができたが、個人差が大きい。	B	健康的な生活を送るために続けてほしい。	区内10位以内を目指し、さらなる体力の向上を図る。
実現に向けた共生社会の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取入れた個に応じた指導の実施・充実	・ICT、タブレット端末を活用した教員の授業力の向上、ICT関連研修・研究授業の実施	週1回生徒支援委員会の開催での情報共有	75	85	B	生徒支援委員会を中心に対象生徒への支援・対応がより具体的に示すことができていた。	B	今後も工夫して進めてほしい。	B	ハイパーQUなどで学級内での生徒の特長を把握し、対応につなげることができた。L-gateも週末に活用した。	B	今後も工夫して進めてほしい。	ハイパーQUやL-gateを活用した生徒理解を進める。
	・エンカレッジルームの活用促進	・エンカレッジルームの保護者への理解啓発	・年度初め、年度終わりの全学年の保護者会でエンカレッジルームを紹介	80	90	B	サポート学習室で不登校生徒の対応を積極的に行っていた。	B	今後も丁寧な対応を進めてほしい。	A	サポート学習室での異学年の交流から登校意欲へつながった。支援員の充実により登校生徒が増えた。	B	今後も工夫して進めてほしい。	不登校巡回教員、別室指導支援員と連携を取り、生徒の登校意欲につなげる。
	・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・学校だよりや学年だより、行事案内の送付	・体育祭、合唱コンクール、校内作品展への参観・参加・出展	80	90	B	副籍交流では学校だよりや学年だよりの送付、体育祭や合唱コンクールなどの行委への見学参加が行えた。	B	生徒一人一人に対して丁寧に対応している。	B	行事や校内作品展に参加、出品することができた。	A	校内作品展は充実していた。	対象生徒へのきめ細やかな対応ができた。継続していく。
不登校・いじめ対応の充実	○豊かな心の育成	委員会活動や係・当番活動、部活動、ボランティアへの参加の充実	生徒学校評価で肯定率80%以上	70	85	B	専門委員会や中央委員会での活動を朝礼で発表している。 部活動での活躍も朝礼で表彰している。	B	生徒の良いところを伸ばしてほしい。	B	生徒会や委員会の生徒を中心に生徒が主体となって活動を進めることができた。	B	生徒が中心となって活動してほしい。	さらに充実した生徒の満足感が高められるような工夫をする。
	○Hyper-QUの活用	QUテストの生徒の実態把握に基づいた指導の推進	年に1回校内でQU研修会を実施	80	90	B	hyper-QUの結果を受け、校内研修会を開き、生徒理解を図ることができた。	B	生徒理解をそのまま続けてほしい。	A	研修会により生徒理解を深めることができ、情報共有を行えた。	B	このまま生徒理解を進めてほしい。	今後も専門の講師を招き、研修を行い、生徒理解の促進を図る。
	○教育相談の強化	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携強化	不登校生徒とのSC、SSW連携率100%	90	95	A	SCの1年生全員面接やSSW、不登校巡回教員との連携を図ることができた。	B	今後も丁寧な対応で進めてほしい。	A	SCやSSW、不登校巡回教員、関係諸機関と密に連携し、対応することができた。	A	今後も丁寧な生徒理解に努めてほしい。	コーディネーター、不登校巡回教員、別室指導支援員と連携し、不登校数の減少を図る。
学校（園）の実現	○学校ホームページの充実	学校ホームページに日頃の教育活動や行事、部活動等を掲載し、保護者等が学校の様子を理解できる環境の整備	HP年間アクセス数90,000以上（昨年89,211）	75	100	B	・ホームページでは日々の活動の様子を随時更新し、情報を発信している。 ・校外学習等の行事の様子や給食の献立はほぼリアルタイムで発信できている。	B	校内の写真ニュースやホームページの活動の様子はわかりやすい。今後も続けてほしい。	A	3月7日現在92,752日頃の活動や部活動、校外学習の様子が随時発信することができた。	B	校内写真ニュースは今後も続けてほしい。ホームページの活動の様子もわかりやすかった。	見やすい情報発信を心がける。
	○学校関係者評価の充実	学校評議員会の年2回開催	学校評議員の肯定率95%以上	80	100	B	7月4日に第1回学校評議員会を開催し、貴重なご意見をいただくことができた。	B	今後も学校の様子を伝えてほしい。	A	道徳授業地区公開講座の協議会で評議員や保護者、地域の方から貴重なご意見を伺えた。	B	今後も学校の様子をいろいろな形で伝えてほしい。	学校評議員会や協議会、アンケート等で貴重なご意見を伺い、学校運営に役立てる。
教育の展開	○働き方改革の推進	・校内掲示板やICT機器の積極的活用 ・定時退勤日の設定	・すべての会議等を1時間以内で実施 ・ライフワークバランス推進の呼びかけ	70	85	B	・職員会議資料をPDF化し、職員室で開催することによって時間の短縮を図っている。 ・O4a掲示板で職員室の情報を共有している。 ・定時退勤を積極的に呼びかけている。	B	このまま効率化を進めてほしい。	B	職員会議の時間短縮はできた。在校時間も減少傾向にある。	B	このまま効率化を進めてほしい。	見直しを図り、効率化を目指す。
	○教員研修の実施	・教員の組織的な育成 ・校外研修	・組織的なOJTの推進 ・区及び都の研修に年1回以上参加	60	75	C	・都の研修システム「プラント」の活用を進めている。 ・リーダーの補助にサブリーダーをつけ、OJTを進める	B	このまま組織的な育成を進めてほしい。	B	・都の研修に参加する教員が増えた。 ・組織的なOJTを構築し進めていく。	B	このまま進めてほしい。	研修への参加を今後も積極的に呼びかける。そ岸的なOJTの構築を図る。